

第 **50** 回 特別企画 言語文化教育研究学会月例会

# 実践研究に テーマが必要な理由

話題提供者 細川英雄さん (言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア主宰)

日本語教育は、実践的な教育分野である研究を持ち込むことで、実践が現場かしかし、それでは実践は進化・成長しは、理論の応用として捉えられてきにあるとすれば、この教育実践こものでなければならない。それは上をのみ目的とするものでない。分の考えを他者に発信し他者とい社会をつくっていくための、り方を問う作業でもある。このような実践研究には、教に何らかのテーマが必要で場合のテーマとは、参加すで表現しようとする中身とりが可能になり、人とある。日本語教育におけが成長し、充実した言語活動主体となるための重要な活動であることを示唆している。本月例会では、50回を記念し、実践研究の原点に戻って、教育実践において語るべきテーマの意味について考えたい。

から、研究の必要はないと考えている人は多い。むしろから離れてしまうと考えるからであろう。

ないだろう。近代の言語教育において、教育実践た面がある。しかし、日本語教育が学習者のためそ、学習者とともにことばの学びを育むたんに学習者の言語能力の向ことばを学ぶことによって自の共感の下で住みよ自己・他者・社会のあ

師及び学び手の双方あると考える。このる個人一人一人がそのことばのことである。このテーマによってこそ、本来のやり人は、ことばによって結ばれると考えられるからで

る実践研究の意味を考えることは、学習者を育てるだけでなく、教師自身

日時：4月22日(土) 14:00-16:00 場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館8階会議室  
参加費：無料 予約：不要 (当日、直接会場にお越しください) 問い合わせ：monthly@alce.jp